

資料 6

国際的動向を踏まえたオープン
サイエンスの推進に関する検討会（第1回）
平成29年12月27日（水）

オープンサイエンスの現状と課題、推進すべきと考えられる取組例

1. データ利活用の方針の整備

【現状と課題】

- データの利活用に係る方針（データポリシー）およびその運用体制の整備が不十分だと、これらの取組が進んでいる諸外国と国際共同研究を行う際に不利益を被る可能性がある。
- データポリシーの整備はオープンサイエンスの推進に当たり必要不可欠であるが、現状国内では、一部の研究機関によるデータポリシーの策定や、一部の研究資金配分機関（AMED、JST 等）による研究資金受給者に対するデータマネジメントプランの策定要請に留まっている。

【推進すべきと考えられる取組例】

- 国が所管する公的研究機関において、研究の特性や国際的環境、産業育成等、必要に応じてオープンクロード戦略を取り入れたデータポリシー策定の推進。
- 競争的資金におけるデータ管理計画の策定要請の拡大。

2. データ利活用のための基盤整備

【現状と課題】

- 国内で運用されている機関リポジトリ数は世界第1位である一方、掲載コンテンツの数は少ない現状に留まっており、一層の充実を図る必要がある。
- データの保存・利活用を行うためのデータの相互運用性を確保するための環境整備が急務。
- オープンサイエンスの取組拡大に伴い、研究者支援に係る人材や、データを扱う専門人材の育成と確保が必要だが、そのための支援が体系的に行われていない。
- データの保存・利活用を行うための基盤の維持・管理に係る経費負担が課題。

【推進すべきと考えられる取組例】

- 機関リポジトリに掲載する論文やデータセット等掲載コンテンツの拡充、及び研究データ提供機能の付与。
- 大学等が共同利用できる研究データ基盤の整備。
- 研究分野別・大型研究プロジェクト単位でのデータプラットフォームの整備。
- データフォーマットの標準化の促進。
- データを専門的に取り扱える高度専門人材育成プログラムの拡充。
- 継続的なデータの維持・管理を可能とする経費支援策の創造。

3. オープンサイエンス推進のためのインセンティブ

【現状と課題】

- データの共有・公開等の活動に対して、研究者のモチベーションやインセンティブを高めるための取組が十分に行われていない。

【推進すべきと考えられる取組例】

- データの公開・共有に係る取組や、有用なデータの産出について、各機関や研究者の業績として評価するためのシステムの構築。
- データの散逸・消滅・損壊防止や利活用促進に向けたデジタル識別子（DOI 等）の付与。
- ORCID 等の活用による、公開・利活用されたデータと関連する研究者の紐づけの効率化。
- 学協会や研究データ利活用協議会等との連携による、オープンサイエンス推進に関連した情報の発信。